

(様式1)

令和2年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 95	提案機関名 県央地域県政総合センター
要望問題名 カシノナガキクイムシの被害木の対処方法について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 ○ ナラ枯れについては、平成28年度に大磯町高麗においてカシノナガキクイムシ（以下、「カシナガ」）が初めて捕獲され、その後、県内各地で被害が確認されている。 県内のナラ枯れ被害状況はメディアにも取り上げられ、注目されている。長野県では被害木が倒れ、死亡した事例もある。 薪炭林、きのご原木としての活用が低調となり、被害を受け易い大径化したナラ類がある里山林は多く、県民に身近な公園等のナラ類も含め、今後も被害は拡大していくと思われる。 当センター管内では、平成29年度に相模原市内で被害が確認され、平成30年度には、相模原市内の別の場所、大和市、座間市にいても被害が確認され、拡大傾向にある。主に都市部の公園や住宅地に隣接した緑地の被害が多く、枯死には至っていないが被害を受けている穿入生存木が確認されている。 ○ カシナガによる被害サイクル ・ 6月から8月頃、健全なナラ類に飛来、穿入し、ナラ類を感染させる。 ・ 盛夏から晩夏にかけて、木全体の水不足が生じ、葉が変色し、枯死に至る。 ・ 翌年の6月から9月に新成虫が羽化脱出の際、ナラ菌が持ち出され、新たな健全木に穿入して被害を拡大させる。 ・ 枯死木の新成虫の脱出数は穿入生存木の10倍以上との専門家の報告がある。 ○ ナラ枯れ被害の拡大防止には、被害木を適切に処理し、カシナガの飛翔区域を拡大させないことが重要となる。特に枯死木は、新成虫の脱出数が多い可能性があるため、優先して処理する必要がある。 駆除は、立木くん蒸や伐倒駆除が行われている。立木くん蒸は、ドリルで穿孔した穴に、薬剤を注入していくが、本数が多いと特に、時間と手間がかかり、枯死木の倒木の危険性が残る。また、被害発見後、実施適期がすぎ、防除できない場合がある。 一方の伐倒駆除は、伐倒、玉切り、伐根のくん蒸処理など、都市部の公園や住宅地に隣接した緑地での作業は困難で、コストもかかる状況である。 ○ そこで、優先順位が比較的低い穿入生存木でも対応が行いやすい、高コストの立木くん蒸や伐倒駆除以外の低コストでの被害拡大防止策について検討いただきたい。 また、穿入生存木を含め被害の程度によって求められる対策のマニュアルを作成いただきたい。 既に、自然環境保全センターでは、カシノナガキクイムシ捕獲シート（かしながホイホイ）を利用した被覆作業を試行中で、羽化時期に確認して、効果をみる予定と伺っている。引き続き対応をお願いしたい。 ○ また、現在、県下数か所で行われているトラップ調査について、今後被害拡大が予想され、コナラやクヌギの大径木が多く生育する相模原市緑区全域、厚木市荻野・飯山地区、愛川町全域、清川村全域においても拡大して実施し、成虫の生育密度等の情報の蓄積をしていただきたい。	
解決希望年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input type="checkbox"/> ①農業技術センター <input type="checkbox"/> ②畜産技術センター <input type="checkbox"/> ③水産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考 ・ 駆除や捕獲等の被害拡大防止に係る対処方法の知見については、随時、提供していただきたい。 ・ 穿孔生存木の対処を含めた対策マニュアルについては、2～3年以内に解決策を提供していただき、管内の市町村や森林・緑地関係者に普及していきたい。	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	自然環境保全センター	担当部所	研究企画部研究連携課
対応区分	<input type="checkbox"/> ①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 <input type="checkbox"/> ③継続検討 <input type="checkbox"/> ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) ナラ枯れ対策の支援		
対応の内容等	平成 29 年度より継続して取り組んでいるカシノナガキクイムシの発生モニタリング調査の結果や、県内各地から寄せられている被害発生情報の集積を通じて、防除などの適切な対応について、本種の生態、被害拡大メカニズム、防除方法などの既存の知見を踏まえて、主管課である水源環境保全課や国設研究機関とも連携し、随時、情報提供していきます。		
解決予定年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内		
備考			